本市の将来を見据えた次期総合計画策定のビジョンは

志政あやせ　橘川　佳彦

●本市の将来を見据えた新たな総合計画の策定に向けて

Q　将来の綾瀬市があるべき姿を目指す次期総合計画策定に当たり、そのビジョンは。

A　計画期間を10年に短縮し、実効性のある計画とする。活力と魅力あふれる10年後の綾瀬市の姿に直結し、将来に影響を及ぼす重点課題に対応できる計画を目指す。

Q　次期総合計画より前に策定される、次期まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係性はどうなるか。

A　総合戦略が求める、持続可能な都市づくりの取り組みは、次期総合計画に含まれると捉えており、総合計画に統合できないか検討している。

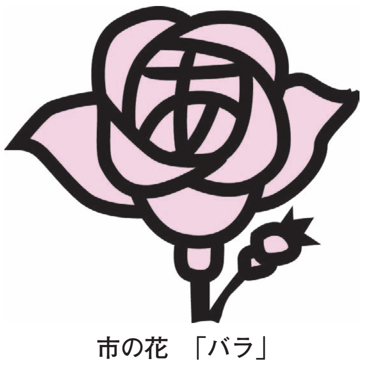
●海外都市との交流について

Q　本市が目指す経済交流施策は、どのような形か。

A　一般的な友好都市の協定ではなく、経済交流の一環として、人材確保を第一に考えており、中央官庁や大学と覚書の締結を目指したい。

Q　外国人技能実習生の受け入れに対し、今後、どのような展開を考えているか。

A　有能な人材が、本市で安心して実習を受けられる環境が重要なため、実習生の送り出し機関と受け入れ機関との連携、帰国後の就労先確保まで、一連の枠組みが必要と考える。市独自の受け入れ機関整備を支援し、市内企業に優秀な実習生を派遣したい。



市の花　「バラ」

運動会や体育祭で子どもたちの応援席にテント設置を

公明党　三谷　小鶴

●暑さ対策について

Q　運動会や体育祭で、子どもたちの応援席に、テントを設置する考えはあるか。

A　開催時期を含め、検討課題の1つと考えている。

Q　熱中症の重症化予防のため、各学校に、冷水機または、製氷機を設置しないか。

A　冷水機は、水道があるため、設置する計画はない。製氷機は、発熱時の氷のうなど、学校生活でも活用できるため、設置場所などを調査し、導入を検討していきたい。

●災害時の対策について

Q　乳幼児液体ミルクは、常温で保存できるため、本市でも備蓄してはどうか。

A　国内生産が確立され、供給や販売状況が整い次第、導入に向けて検討する。

Q　液状化調査を希望する声があるが、市の考えは。

A　県が作成した地震被害想定調査報告書では、市が想定する、大正型関東地震の液状化危険度が「かなり低い」か「液状化対象外」のため、被害は極めて少ないと考える。

Q　災害時避難行動要支援者が、支援を受けたい内容や緊急連絡先などを記入できるヘルプカードを作成しないか。

A　内部障害者などにヘルプマークを配布するとともに、希望者には、必要な支援などが記載できる、ふれあい手帳を配布しているため、作成する考えはない。

インターチェンジ開通を見込んだ道の駅設置の意義は

志政あやせ　笠間　昇

●地域振興施設（道の駅）について

Q　（仮称）綾瀬スマートインターチェンジの開通を見込む中で、道の駅を設置する動きがあるが、その意義は。

A　農畜産業をはじめ、地域産業活性化の核施設となり、交流人口の取り込みに寄与すると考える。周辺での観光農園などへの展開を期待する。

Q　アグリパーク構想は、後期基本計画で位置付けているが、道の駅はどうか。

A　市まち・ひと・しごと創生総合戦略に、地域振興施設の整備を位置付け、道の駅として整備することとした。

●森林環境税について

Q　本市は、どのような事業に森林環境税を使うのか。

A　公共施設の木造化や木質化による木材利用が、市民の理解を得られやすいと考えるが、費用が多額なため、基金を創設し、活用を図りたい。

●庁舎管理について

Q　職員が窓口などで、危険を感じる事例はあったか。

A　過去に、行政対象暴力が何件か起きている。平成29年5月には、福祉総務課の職員が殴られる事件があった。

Q　防犯カメラには、暴力抑止効果があるため、警備会社が設置するカメラの映像は、市が権限を持つべきでは。

A　個人情報保護の観点から、現時点では、市が映像情報を取得する考えはない。

高齢者の社会的なつながりを生み出す施策の実施を

あやせ未来会議　佐竹　百里

●「つながり」を重視する高齢者施策について

Q　高齢者が社会とのつながりを築く施策の状況は。

A　本市の特色である元気高齢者社会参加システムとして、アクティブ・シニア応援窓口を設置するなど、元気高齢者による地域でのネットワークの構築を含め、高齢者の社会参加を進めている。

Q　平成29年度に実施した元気高齢者調査で把握した特徴と、その後の取り組みは。

A　元気高齢者は、地域活動などに積極的に参加し、毎日の生活に満足しているなどの特徴があった。結果を踏まえ、今年度から、活動団体の活性化を図るリーダーワークショップなどを実施している。

●大雨や猛暑日の対策について

Q　教育委員会は、どのような熱中症対策を学校に対して伝えているのか。

A　経験したことのない気象状況にあることは十分意識しており、子どもたちの実態や状況に応じて想定外を想定し、最悪のケースを常に念頭に置きながら行動するよう、指導や助言に努めている。

Q　市外から観光などで来た方々への暑さ対策も必要と考えるが、休憩できる公園を掲載した地図を作成しては。

A　ホームページにある都市公園一覧や位置図に、各公園の水道施設やトイレなどの情報を掲載していく。

より多くの意見を取り入れた光綾公園再整備計画を

畑井　陽子

●公園について

Q　光綾公園再整備計画では、過去に地元住民説明会などを行ったが、平成30年度の実施設計後、再度、市民の意見を聞く場を設けないか。

A　説明会のほか、市ホームページなどで意見を募集したが、事業内容の見直しを求める意見はなかったため、再度、意見を聞く予定はない。

Q　光綾公園は十分特色があるが、誰にとって魅力のある公園として整備するのか。

A　光綾公園は、市の花であるバラを普及させるシンボル公園として、利用される全ての方にとって魅力ある公園を目指している。

Q　公園の樹木は、どの枝を切るかなど市民の意見が分かれるが、剪定の基準は。

A　樹木は数年おきに、先を見越して形を整える強剪定に加え、隣接住宅に迷惑とならない剪定を行っている。

●中学校における部活動について

Q　平成30年3月にスポーツ庁から示された運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインに対し、市はどう対応していくのか。

A　現在、市としてのガイドライン案を作成し、校長会で検討している。生徒の健康面や学習面、バランスの良い生活と成長の確保のほか教員の働き方改革も考慮し全部活動を対象に策定していく。

●早川城山多目的広場を安全に利用できるグラウンドに

Q　グラウンドの砂粒が大きく少年サッカーなどで使いづらいとの声を聞く。土ぼこり対策を万全にした上で、安全な砂に入れ替えないか。

A　土ぼこり対策と利用者の安全に対応した材料があると聞いており、費用対効果などを考慮し整備方法を指定管理者と調整して検討したい。

市民の生活を第一に考えた滞納処分と支援策を望む

日本共産党　上田　博之

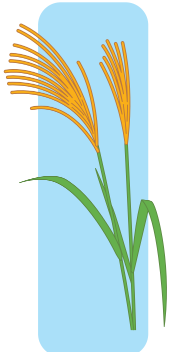
●生活困窮のサインを捉え生活再建のための支援を

Q　税金の滞納は生活に困窮しているサインだが、生活再建相談につなげているか。

A　滞納相談後、経済的問題などがある場合、職員が付き添って生活困窮者自立相談支援窓口へ案内している。

Q　滞納相談後、分納額が多いため介護保険料が支払えず、サービス利用を諦めている世帯がある。生活再建できる分納計画となっているか。

A　滞納解消に向けた支払い計画を提案しているが、納税することで生活苦になるような方に対しては、状況に応じて滞納処分の停止を行うなど、滞納者が生活再建に注力できるよう配慮している。

Q　滋賀県野洲市は差し押さえを控え、生活支援を強化することで徴収率を上げているが、この事例に学ばないか。

A　事例の学べる部分は学ぶが、本市でも取り入れるかは、見極めていきたい。